

音便

※主に四段・ナ変・ラ変動詞に現われる。

① 連用形が「て」「たり」「たまふ」などに続く時

② ラ変の連体形が「めり」、伝推の「なり」
「べし」などに続く時

〈イ音便〉(キ・ギ・シ)

聞きて↓聞いて 泳ぎて↓泳いで おぼして↓おぼいて

〈ウ音便〉(ヒ・ビ・ミ)

買ひて↓買うて 喜びて↓喜うで 頼みて↓頼うで

〈撥音便〉(ン音||はねる音(ビ・ミ・ニ))

飛びて↓飛んで 進みたる↓進んだる 死にたり↓死んだり

〈促音便〉(ツ音||つまる音(チ・ヒ・リ))

打ちて↓打つて 思ひて↓思つて 散りて↓散つて
ありて↓あつて

◎撥音便と促音便は場合によっては表記されないことがある。

あるべき→あんべき→あべい

あるめり→あんめり→あめり

あるなり→あんなり→あなり

さるべき→さんべい→さべい

ざるめり→ざんめり→ざめり

べかるめり→べかんめり→べかめり

べかるなり→べかんなり→べかなり

たるめり→たんめり→ためり

なるめり→なんめり→**なめり**

断婉推

なるなり→なんなり→**ななり**

断伝推

要するにラ変型活用語の連体形の下に「めり」「なり」、伝推の「なり」、「べし」があると表記されない。

cf. 「あめり」「ざめり」「べかめり」「ためり」の

「あ」 || ラ変(連体)、 「めり」 || 腕曲推量、

「ざ」 || 打消(連体)、 「べか」 || 推量(連体)、

「た」 || 完了(連体)

※形容詞の連体形「――く」「――しく」が連用修飾語
になって下に続く時はウ音便になる。

いとうつくしく・てゐたり↓いとうつくしう・てゐたり

月くまなく・あはれなり↓月くあまなう・あはれなり

※形容詞の連体形「――き」「――しき」が体言や助詞
「かな」に続く時はイ音便になる。

いと暗き夜↓いと暗い夜

悲しきかな↓悲しいかな